高崎市文化財調査報告書第 299 集

住吉町遺跡 2

－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2012

高崎市教育委員会
大和ハウス工業株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例　言

1．本書は、宅地造成工事に伴う住吉町遺跡第２次発掘調査の報告書である。
2．本調査及び整理作業から本書作成に至る経費は、地権者並びに開発事業者である大和ハウス工業株式会社に負担して頂いた。
3．本遺跡は、群馬県高崎市住吉町 21－1、－6、－9、－10 番地に所在している。
4．本調査及び整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
5．発掘調査は、A区を南田法正（有限会社毛野考古学研究所）、B区を淺間陽（同上）が担当した。
6．発掘調査・整理作業は以下の期間で実施した。
【第２次発掘調査】
A区　平成 23 年 3 月 26 日　～　同年 3 月 31 日
B区　平成 23 年 6 月 21 日
【整理作業】
平成 23 年 4 月 6 日　～　同年 8 月 31 日
7．本遺跡は高崎市教育委員会の遺跡番号 531 である。
8．本書の執筆については、Iを田口一郎（高崎市教育委員会）、それ以外の執筆と編集を南田が行った。
9．本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
10．発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである。（順不同・敬称略）
【発掘調査】
狩野友好　永井祐二　永井述史　橋元裕児
竹生正明　庭山皓正
〔遺構測量〕竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所）
【整理作業】
瀬尾則子　永井祐二
〔遺物実測〕宮本久子（有限会社毛野考古学研究所）
11．発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏より多大なるご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）
大和ハウス工業株式会社　　株式会社坂本工業
魚源本店　　柳島基平
山下工業株式会社　　カネコハウス有限会社
〔基準点設置〕有限会社スミヤ測量

凡　例

1．挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海抜標高を示す。座標は世界測地系（震災後）を用いた。
2．遺構・遺物図の縮尺は以下の通りである。挿図中にはスケールを付して表示している。
遺構　全体図：1/200、遺構図：1/60・1/100
遺構断面図：1/30・1/60
遺物　土器・陶磁器類：1/4、古銭：1/2
3．遺構覆土および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。
4．本書で使用する火山灰指標テフラの略称。
As－A：浅間A軽石（1783 年・天明３年）
As－B：浅間B軽石（1108 年・天仁元年）
Hr－FP：榛名二ッ岳伊香保テフラ（６世紀中葉）
Hr－FA：榛名二ッ岳渋川テフラ（６世紀初頭）
As－C：浅間C軽石（３世紀後半～４世紀初頭）

目　次

例　言・凡　例
目　次
I　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・1
II　地理的・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・1
　1．地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2．歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・2
III　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・3
IV　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
V　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1．As－B層下水田跡・・・・・・・・・・・・・4
　2．ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　3．土蔵跡基礎・・・・・・・・・・・・・・・・6
　4．遺構および遺構外出土遺物・・・・・・・・8
　5．小　結・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
写真図版
抄　録・奥　付

挿　図　目　次

第１図　調査区域図・・・・・・・・・・1
第２図　周辺の地形と遺跡・・・・・・2
第３図　基本層序・・・・・・・・・・・4
第４図　遺構全体図・・・・・・・・・・5
第５図　遺構平面図・・・・・・・・・・6
第６図　各遺構断面図・・・・・・・・・7
第７図　出土遺物実測図・・・・・・・・8

写真図版目次

PL．1
A区　全景（東から）　／　A区　全景（西から）

PL．2
基本層序A（東から）
土層堆積状況（D－D′東側・南から）
畦畔痕跡　検出状況（北西から）
足跡列　検出状況（南西から）
畦畔截割状況（G－G′・南東から）
足跡土層断面（H－H′・北西から）
土蔵跡杭基礎　検出状況（西から）
土蔵跡杭基礎　検出状況（西から）

PL．3
杭基礎上部　礎板検出状況（西から）
杭基礎　露出状況（南から）
杭基礎上部土層断面（C－C′・南から）
杭基礎截割状況（I－I′・南から）
B区　全景（西から）

PL．4
土蔵跡蝋燭・算盤地業基礎　土層断面（西から）
算盤基礎　検出状況（西から）
畦畔痕跡・足跡・掘削痕　検出状況（南西から）
土蔵跡基礎の石材　／　基礎杭出土直後の状態
出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

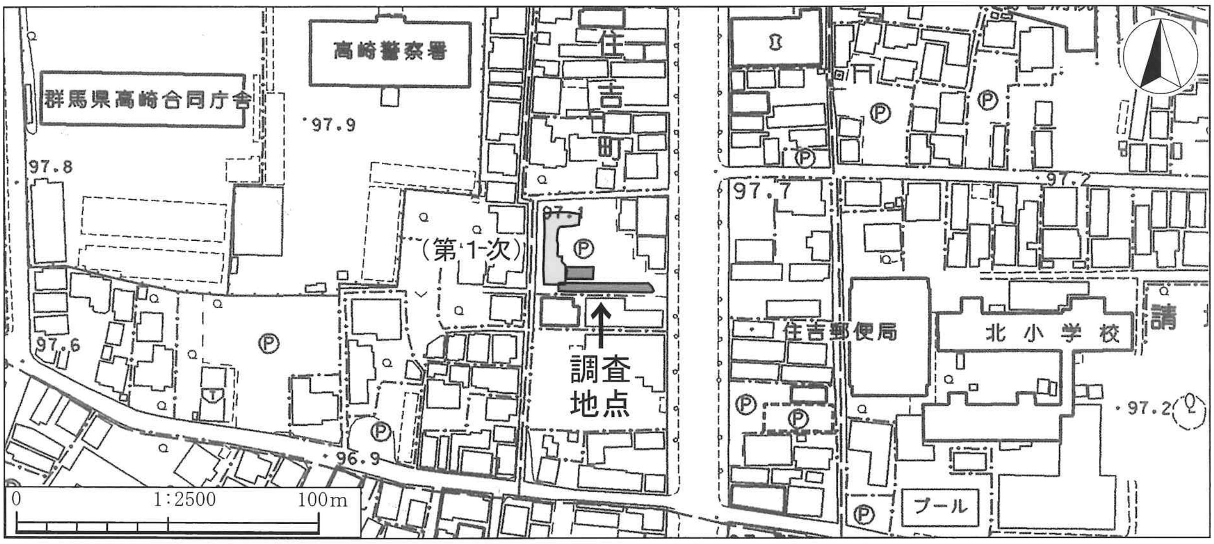
平成24年2月、大和ハウス工業株式会社群馬支店（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。照会地の一部では、平成3年に事業者の共同住宅建設計画に伴う発掘調査（第1次）により、平安時代水田跡が検出されており、当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年2月21日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年3月1日に工事予定地の試掘調査を実施し、1次調査地に連続する平安時代の水田遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、造成地のうちの道路建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成24年3月22日付けで高崎市長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成24年3月22日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

発掘作業は、3月26日に開始され3月30日の終了検査（A区）の後に造成工事が着手されたが、4月になり道路計画に変更が生じたためその取扱いについて事業者と協議を行い、6月21日に変更部分についての追加調査（B区）を実施した。



第1図　調査区域図

Ⅱ　地理的・歴史的環境

1．地理的環境

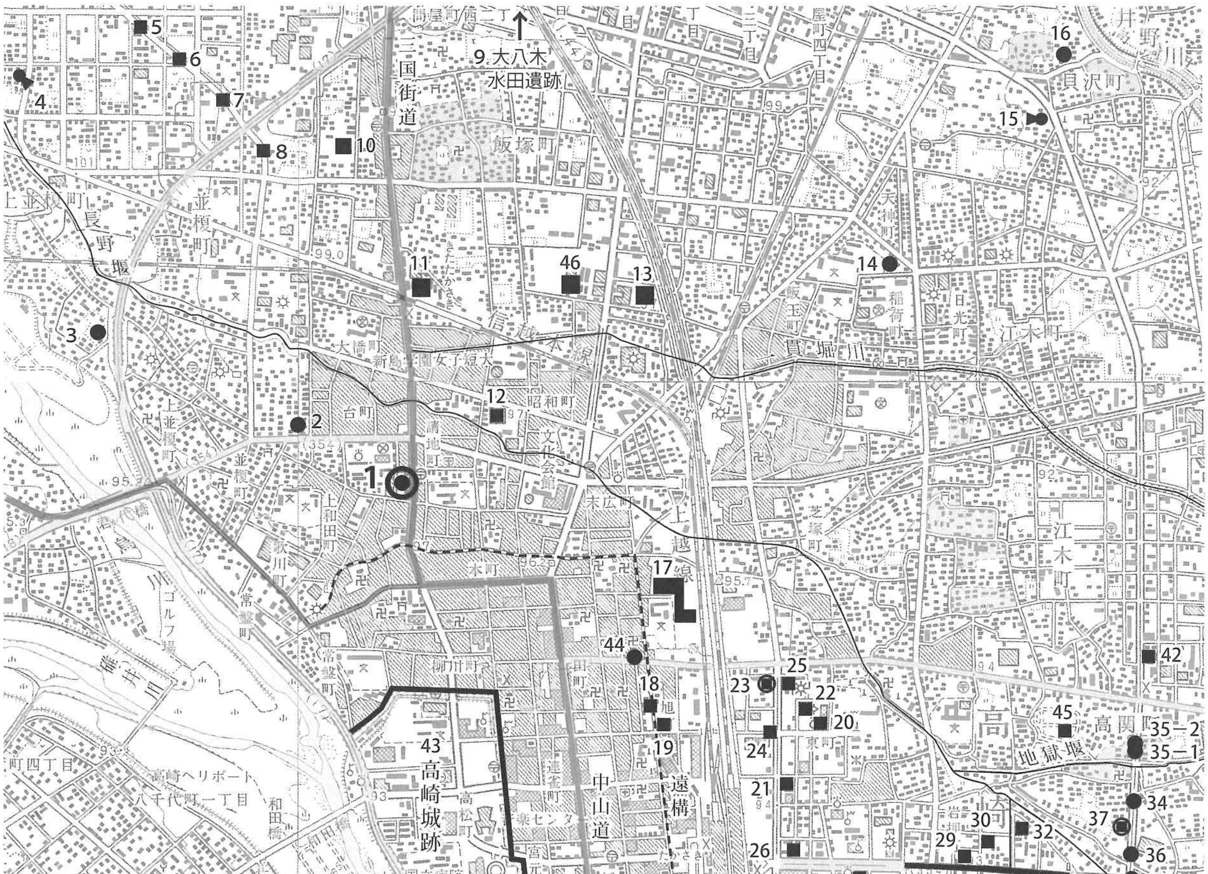
住吉町遺跡は群馬県高崎市の市街中心部に所在する。高崎市は関東平野最奥部にあたり、北西に榛名山、北東に赤城山を望む。地形的には五大別（低地帯・低台地・洪積台地・扇状地・丘陵）できる。

井野川から広瀬川にかけての前橋台地は、約2.2万年前の浅間山噴火に伴う大規模な山体崩壊による前橋で泥流堆積物が基盤となっており、特に烏川と井野川に挟まれた市中央部を**高崎台地**と呼ぶ。北西－南東方向に

流下する中小河川や支谷の浸食を受け、地表面では起伏を感じにくいが、地下では樹枝状に展開する深い埋没谷と微高地が入り組む。台地北縁は榛名山東南麓の広大な**相馬ヶ原扇状地**末端に接し、井野川左岸では細長い舌状台地と谷が連なる特徴的な地形である。対照的に、烏川・碓井川右岸にあたる市の南西側は安中市・富岡市・榛名町等から続く第三紀系丘陵の東端部にあたり、**観音山丘陵**・秋間丘陵と呼ばれる。標高 200 ～ 300 mながら、起伏の激しい複雑な地形が発達する。秋間丘陵の東縁は字栃谷戸を境にして、東西長約 6 km、南北幅 0.25 ～ 1.3km、標高 110 ～ 180 mの三角形状の洪積台地（**八幡台地**）となり、烏川と碓井川の合流点に接する。以上の高崎台地・観音山丘陵・八幡台地を浸食する井野川・烏川・碓井川の一帯は幅の広い「**低地帯**」となり、自然堤防状の微高地や段丘面を形成する。住吉町遺跡は烏川左岸の自然堤防後背湿地に立地し、夏場は表土下 30cm ほどで湧水する。遺跡周辺には、本来は小河川と思われる長野堰を基幹とした用水網が展開する。

2．歴史的環境

周辺一帯の低地では弥生時代あるいは古墳時代初頭～平安時代の水田跡が多数検出され、特に As － B 層直下水田では大畦や用水路の位置・走向に基づいて条里地割が復元されている。微高地上では弥生時代～中世の集落・古墳・周溝墓・屋敷跡が点在する。近世になると、中世・和田城の地に井伊直政によって高崎城が築城され、その城下町は「遠構」と呼ばれる堀や土塁で囲郭されていた。近代以降の高崎は絹糸精練の一大拠点として隆盛する。三国街道に面する本遺跡地は、聞き取りによれば終戦時までは米・雑穀問屋の臼田氏の店舗兼邸宅で、土蔵が２棟存在していた。戦後は「絹糸精練会社」に代わり、近年までこの土蔵は残っていた。



第２図　周辺の地形と遺跡

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	概要	文献
1	住吉町遺跡（１次） （２次＝本報告）	Ｂ下水田 Ｂ下水田、蔵跡杭基礎（幕末～近代ヵ）	『市内遺跡埋文緊急発掘調査報告書』 高崎市教育委員会 1992 本報告
2	並榎台原遺跡	古墳後期住居・滑石製品工房跡	『市内遺跡埋文緊急発掘調査報告書』 高崎市教育委員会 1991
3	上並榎屋敷前遺跡	古墳後期住居・滑石製品工房跡	『上並榎屋敷前遺跡』高崎市遺跡調査会 1992
4	上並榎稲荷山古墳	墳丘湮滅、５世紀後半	『上並榎稲荷山古墳』高崎市文化財調査報告書 46 集
5－1	上並榎御料所遺跡	Ｂ下水田、FA 下水田、Ｃ下水田	『上並榎御料所遺跡』高崎市教育委員会 1990
5－2	上並榎御料所Ⅱ遺跡	Ｂ下水田、FP 下水田、FA 下水田、Ｃ下水田	『上並榎御料所Ⅱ遺跡』高崎市遺跡調査会 1997
6	上並榎下松Ⅰ・Ⅱ遺跡	Ｂ下水田、FA 下水田、Ｃ下水田	『上並榎下松遺跡』市教委 1991、『上並榎下松Ⅱ遺跡他』市教委 1993
7	並榎北遺跡	Ｃ下水田、弥生時代水田	『並榎北遺跡』高崎市教育委員会 1988
8	並榎北Ⅱ～Ⅴ遺跡	Ｂ下水田、FA 下水田、Ｃ下水田	『並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡』高崎市教育委員会 1996
9	大八木水田遺跡	Ｂ下水田	『大八木水田遺跡』高崎市教育委員会 1979
10	飯塚新田西Ⅱ遺跡	Ｂ下水田、ＦＡ洪水層下水田	『飯塚新田西Ⅱ遺跡』高崎市遺跡調査会 1997
11	飯塚大道東遺跡	Ｂ下水田	『飯塚大道東遺跡』高崎市遺跡調査会 1996
12	昭和町Ⅰ遺跡	平安時代水田、中近世土坑	『新編高崎市史 資料編２ 原始古代Ⅱ』2000
13	飯塚東金井遺跡	Ｂ下水田	『市内遺跡埋文緊急発掘調査報告書』1992
14	稲荷町Ⅰ遺跡	弥生中期住居・祭祀遺構、古墳後期住居	『稲荷町Ⅰ遺跡』 高崎市遺跡調査会 1992
15	五霊神社古墳	前方後円墳・６世紀後半	『上毛古墳綜覧』1938、『新編高崎市史 資料編１原始古代Ⅰ』1999
16	貝沢Ⅰ遺跡	土師器（５世紀末～６世紀初頭）	『市内遺跡埋文緊急発掘調査報告書』 高崎市教育委員会 1994
17	江木諏訪西遺跡	近世溝、Ｂ下水田、古墳時代溝	『江木諏訪西遺跡』高崎市遺跡調査会 1995
18	真町Ⅰ遺跡	高崎城遺構、Ａ下水田復旧痕、Ｂ下水田、９ｃ洪水層下水田	『真町Ⅰ遺跡』高崎市教育委員会 1996
19	旭町Ⅰ遺跡	Ｂ下水田、９ｃ洪水層下水田	『市内小規模埋文発掘調査概報』高崎市教育委員会 1996
20	東町Ⅰ遺跡	近世土坑・溝、Ｂ下水田	『東町遺跡』高崎市教育委員会 1989
21	東町Ⅱ遺跡	Ｂ下水田	『市内遺跡埋文緊急発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1992
22	東町Ⅲ遺跡	Ａ下水田・復旧痕、Ｂ下水田、ＦＰ２次洪水層下水田、Ｃ下水田、弥生溝	『東町Ⅲ遺跡』高崎市教育委員会 1994
23	東町Ⅳ遺跡	中～近世溝、Ｂ下水田、ＦＰ２次洪水層下水田、弥生土坑・溝	『東町Ⅳ遺跡』高崎市教育委員会 1995
24	東町Ⅴ遺跡	近代工場跡、Ａ下水田復旧痕、Ｂ下水田	『東町Ⅴ遺跡』高崎市教育委員会 1996
25	東町Ⅵ遺跡	Ｂ下水田	『東町Ⅵ遺跡』高崎市遺跡調査会 2000
26	栄町Ⅰ遺跡	Ａ下水田復旧痕、Ｂ下水田	『栄町Ⅰ遺跡』高崎市遺跡調査会 1996
27	栄町Ⅱ遺跡	Ａ下水田復旧痕、Ｂ下水田	『栄町Ⅱ遺跡』高崎駅東口線栄町遺跡調査会 1999
28	栄町Ⅲ遺跡	Ａ下水田復旧痕、Ｂ下水田	『栄町Ⅲ遺跡』高崎市教育委員会 2003
29	岩押町Ⅰ遺跡	Ａ下水田復旧痕？、Ｂ下水田	『岩押Ⅰ遺跡』高崎市遺跡調査会 1994
30	岩押町Ⅱ遺跡	Ｂ下水田	『岩押Ⅱ遺跡』高崎市遺跡調査会 1996
31	岩押町Ⅲ遺跡	平安時代水田、近世畑	『岩押Ⅲ遺跡』（財）群馬県埋文調査事業団 2011
32	上中居平塚Ⅱ遺跡	Ｂ下水田	『上中居平塚Ⅱ遺跡』高崎市遺跡調査会 1996
33	上中居平塚Ⅰ遺跡	Ａ下水田復旧痕？、Ｂ下水田	『上中居平塚Ⅰ遺跡』高崎市遺跡調査会 1996
34	高関東沖・村前遺跡	中世以降掘立・井戸・水路、奈良水路、古墳住居、弥生中期住居	『高関東沖・村前遺跡』高崎市教育委員会 1995
35－1	高関堰村遺跡	縄文、弥生時代溝（環濠）	『高関堰村遺跡』高崎市教育委員会 1992
35－2	高関堰村遺跡（２次）	Ｂ下水田	『高関堰村Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会
36	高関村前遺跡	中世掘立・土坑・溝、古墳中～後期住居・掘立、古墳後期～終末期畠、弥生後期住居	『高関村前遺跡』高崎市教育委員会 1992
37	高関村前Ⅱ遺跡	中世掘立・井戸・水路、Ｂ下水田	『高関村前Ⅱ遺跡 高関東沖・村前遺跡』高崎市教育委員会 1995
38	上中居早道場遺跡	中～近世溝・井戸	『上中居早道場遺跡』高崎市教育委員会 1992
39	上中居辻薬師遺跡	中世環濠屋敷、Ｂ下水田	『上中居辻薬師遺跡』高崎市教育委員会 1989
40	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	中世環濠屋敷・墓坑、古墳前期周溝墓・不明住居・水路	『上中居辻薬師Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会 1992
41	上中居西屋敷遺跡	Ｂ下水田	『上中居西屋敷遺跡』高崎市遺跡調査会 1994
42	高関北沖遺跡	Ｂ下水田	『市内遺跡埋文緊急発掘調査報告書』高崎市教育委員会 1992
43	高崎城遺跡 Ⅰ～Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ・XVI	近代陸軍施設、近世城郭遺構、中世堀・井戸・地下式坑、Ｂ下水田、古墳後期～奈良平安住居、古墳滑石製品工房、弥生中期環濠、弥生中後期周溝墓	『高崎城遺跡Ⅱ』『Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ』『梅の木郭遺跡』『三ノ丸遺跡』『XVI』高崎市教委 1998・1990・1993・1994・2004
44	羅漢町遺跡	高崎城遺構堀、寺院内墓地（木棺墓 32・土坑４）	『羅漢町遺跡』（財）群馬県埋文調査事業団 2011
45	高関高根遺跡	Ｂ下水田	『高関高根遺跡』高崎市教育委員会 2009
46	飯塚西金井Ⅱ遺跡	Ｂ下水田	『飯塚西金井Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会 2007

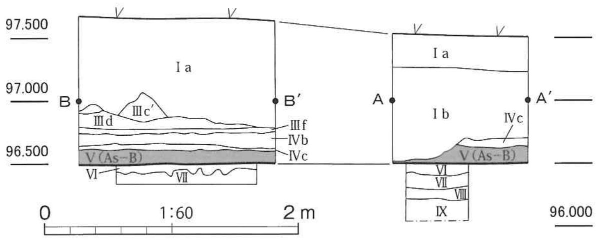
Ⅲ　調査の方法と経過

対象面積はＡ区約 146㎡・Ｂ区約 40㎡で、隣地との余地を確保し、Ａ区は実質 89.9㎡、Ｂ区は 30.0㎡となった。表土掘削は 0.25㎥バックホーにより As－Ｂ層（Ⅴ層）上面まで掘り下げ、水田遺構の精査はジョレン・移植ゴテ等により人力で行い、図面・写真記録は適宜実施した。断面図は縮尺 1/20 で手実測し、平面図は自動追尾システムトータルステーションを用いた。遺構撮影は 35㎜白黒ネガ・カラーリバーサル、高画素デジタルカメラを用いた。調査はＡ区を平成 24 年３月 26 日～同年３月 31 日に、Ｂ区を同年６月 21 日に実施した。

３月 26 日：調査区設定。重機表土掘削。器材・仮設トイレ搬入。遺構精査確認作業。ＧＰＳ観測による基準点設置。　27 日：As －Ｂ層下水田跡の検出作業。蔵跡基礎の確認作業。　28 日：調査区全景写真。土蔵跡基礎全景写真。各遺構平面・断面測量。畦畔截割作業、基本層序トレンチ掘削、土蔵跡基礎截割。各トレンチ断面写真。　29 日：各遺構平面・断面測量。器材撤収。高崎市教育委員会　田口一郎氏立会いのもと、調査完了確認検査。　30 日：重機による埋め戻し作業。養生撤去。　31 日：仮設トイレ撤収。　６月 21 日：調査区設定、重機表土掘削。遺構調査後、全景写真および平面測量。器材撤収。

Ⅳ　基本層序

調査地点は烏川左岸の後背湿地にあたり、古代以降は細砂混じりのシルト質粘質土（Ⅸ層）を基盤としている。Ⅸ層には浅間Ｃ軽石（As－C）が少量含まれているが、Ⅵ～Ⅸ層間に Hr － FA（榛名山二ッ岳渋川テフラ・Hr－S・６世紀初頭）は層として確認できなかった。Ⅶ層は混入物がほとんど伴わない明褐灰色粘質土で、粘性は強い。Ⅵ層は As－B 下水田の耕作土と考えられる、黒褐色～暗灰褐色粘質土である。Ⅴ層は浅間Ｂ軽石（As－B）一次堆積層で、Ⅳ層は中世以降と推定される As－B 混入土層となる。Ⅳａ層はⅣｂ・ｃ層よりも As － B 純層に近く、その成因は不明である。Ⅲ層は粘質土・シルト質土・砂質土で構成され、As－A が少量含まれることから、18 世紀後葉以降に長野堰などから溢れ出た洪水質および泥流質土壌に起因するものと推測する。Ⅲｄ層からは近世の擂鉢片が出土した。Ⅱｃ層はサラサラとした細砂層で、おそらくは洪水層であろう。Ⅱｃ層下部の溝状遺構からは 19 世紀初頭～中葉頃の馬の目皿破片が出土しており、洪水は 19 世紀中葉以降である。現在の一次的豪雨でも調査区南西隣接地は冠水するというから、弘化３年（1846）・明治 29 年（1896）の洪水および明治 43 年（1910）の大洪水などが想定される。Ⅱ層およびⅢ層を破壊する溝状遺構（幕末～近代ヵ）の底面付近には、細長く薄い木材（樹皮ヵ）や炭化物が多量に廃棄されている。



基本層序　土層説明

Ⅰa　灰 白 色。現代砕石客土。
Ⅰb　明褐灰色。砂質土・礫・Ⅱc 層細砂・レンガなどの近現代複合層。
Ⅱb　黄 褐 色。硬化。細砂多量、炭化物少量、軽石（As-A ヵ）多量。
Ⅱc　明褐灰～灰白色。軟弱。細砂主体。下部は砂質土。洪水層ヵ。
Ⅲa　黄 褐 色。しまり非常に強い。粘性なし。細砂多量、小礫（φ5mm）少量。粘質土少量、炭化物少量、As-A・黄白色粒各少量。
Ⅲb　半褐～黄灰褐色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A　少量。
Ⅲc　灰 褐 色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A 少量、細砂微量。
Ⅲc′　褐 灰 色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A 少量、細砂微量。
Ⅲd　暗黄褐色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A 少量、細砂微量。
Ⅲe　暗灰褐色。しまり強い。粘性なし。細砂多量、As-A 少量、粘質土小量。
Ⅲf　褐　　色。しまり強い。粘性なし。細砂多量、As-A 少量。
Ⅲg　灰 褐 色。しまり強い。粘性なし。細砂多量、As-A 少量、粘質土小量。
Ⅳa　黄 褐 色。しまりあり。As-B 類似の軽石純層。
Ⅳb　褐　　色。しまりあり～強い。As-B 多量（2 次堆積）。
Ⅳc　黒 褐 色。しまりあり～強い。As-B 主体（2 次堆積）。
Ⅴ　黄白色～暗褐色。しまりあり。As-B（1 次堆積）。最下部に細粒火山灰。
Ⅵ　黒褐色～暗灰褐色。しまり強い。粘性強い。As-B 直下水田跡の耕作土。
Ⅶ　明褐灰色。しまり強い。粘性強い。均質。
Ⅷ　褐～暗灰褐色。しまり強い。粘性強い。均質。

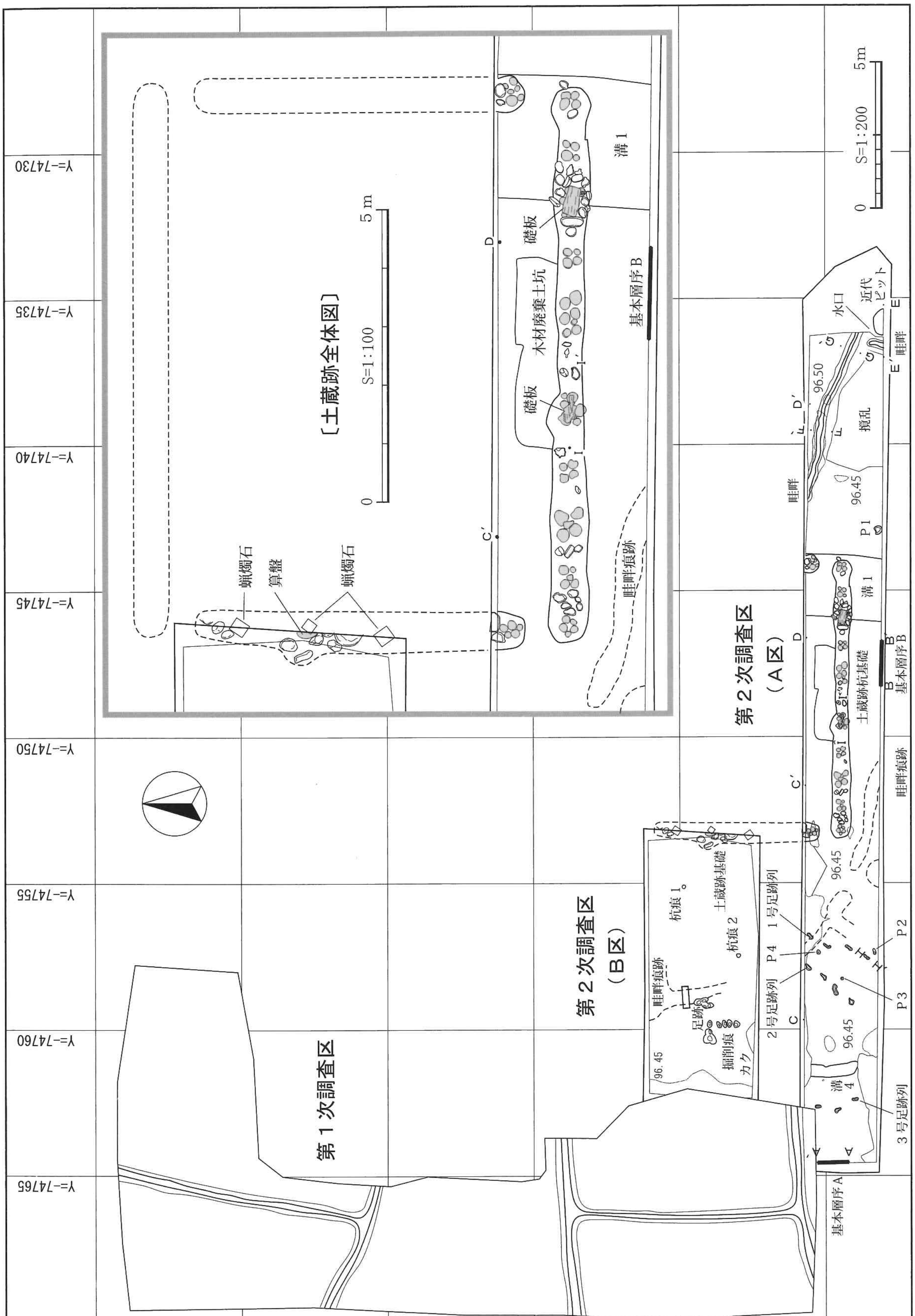
第３図　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

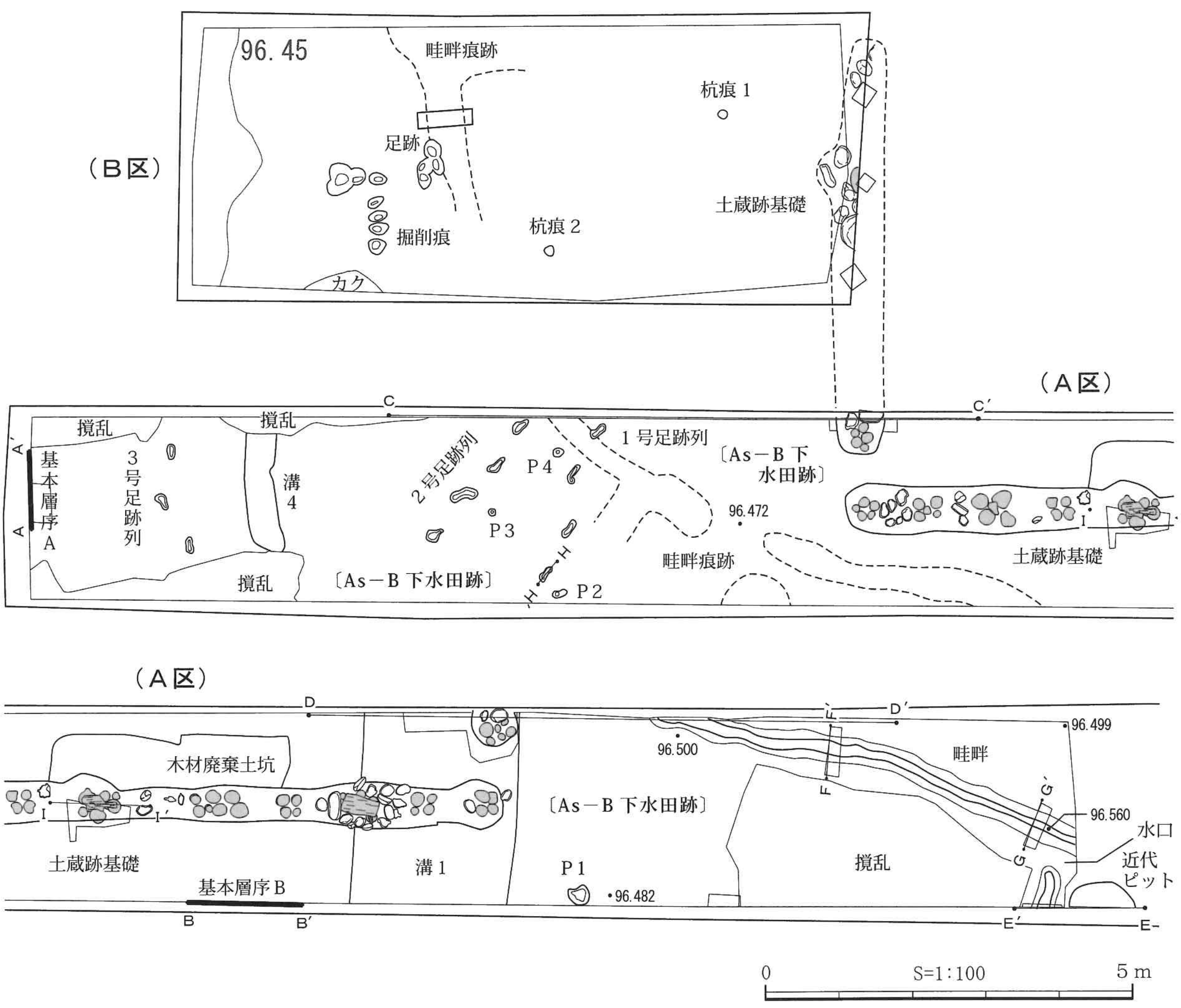
１．As － B 層下水田跡

（第４・５図、ＰＬ．１・２）

重複：幕末～近代と推測される遺構に一部破壊され、Ａ区東端部と西部を部分的に撹乱で失う。**埋没状態**：As － B 一次堆積層が全面を被覆する。**地形**：ほぼ水平である。**区画**：明瞭な畦畔は横畦・縦畦各１条のみで、区画は３面といえる。縦畦はＡ区東端にあるため、実際には２面しか調査できていない。各水田面の全体像は不明である。**畦畔**：東端部に縦横各２条ある。下端幅 28 ～ 39cm、上端幅７～ 18cm、高さ４～７cm を測り、比較的良好に遺存する。横畦はやや蛇行し（N－ 107°－Ｅ）、第１次調査区南端横畦との接続が予測される。縦畦はわずか 50cm 程しか調査できなかったものの、横畦とは直交方向（N－ 107°－Ｅ）であろう。破線表示の畦畔痕跡は、ごくわずかな高まりである。**水口**：東端部に１ヶ所あり、下端幅 26cm、上端幅 46cm を測る。**水田面の状態**：耕作痕・根株痕と推測されるような凹凸は非常に少なく、なだらかである。Ｂ区で掘削工具痕と推測される小穴列を１ヶ所検出した。**足跡列**：３条検出した。１・２号はおよそ北東→南西へ、３号は南北方向に歩行している。１号は各長軸長 23 ～ 27cm・歩幅 67 ～ 74cm、２号は長軸長 25 ～ 29cm・歩幅 61.5cm、３号は長軸長 22 ～ 23cm・歩幅 68cm を測る。各深さは１～５cm で、いずれも As － B 一次堆積層で埋没していた。**遺物**：なし。**時期**：1108 年、およびそれ以前であろう。


〔土蔵跡全体図〕
S=1:100
S=1:200
第1次調査区
第2次調査区（A区）
第2次調査区（B区）
溝1
礎板
木材廃棄土坑
基本層序B
基本層序A
畦畔痕跡
蝋燭石
算盤
水口
近代ピット
畦畔
撹乱
土蔵跡基礎
土蔵跡杭基礎
杭痕1
杭痕2
足跡
掘削痕
カク
1号足跡列
2号足跡列
3号足跡列
溝4
P1
P2
P3
P4
96.45
96.50
X=-37350
X=-37345
X=-37340
X=-37335
X=-37330
X=-37325
Y=-74730
Y=-74735
Y=-74740
Y=-74745
Y=-74750
Y=-74755
Y=-74760
Y=-74765
Y=-74770

第4図　遺構全体図



第５図　遺構平面図

２．ピット（第４・５図、ＰＬ．１・２・３）

Ｐ１～４はAs－Ｂ主体の２次堆積層で埋没する。Ｐ１（深さ 12cm）からは近世以降の平瓦片が出土した。Ｐ２（深さ 21cm）・P3（深さ 13cm）・P4（深さ 29cm）は杭状の細い形状で、時期は中世以降であろう。Ｂ区杭痕は、周囲にＢ混土を伴う細い腐食木材で、中世以降と推測する。

３．土蔵跡基礎（第４・５図、ＰＬ．１・２・３）

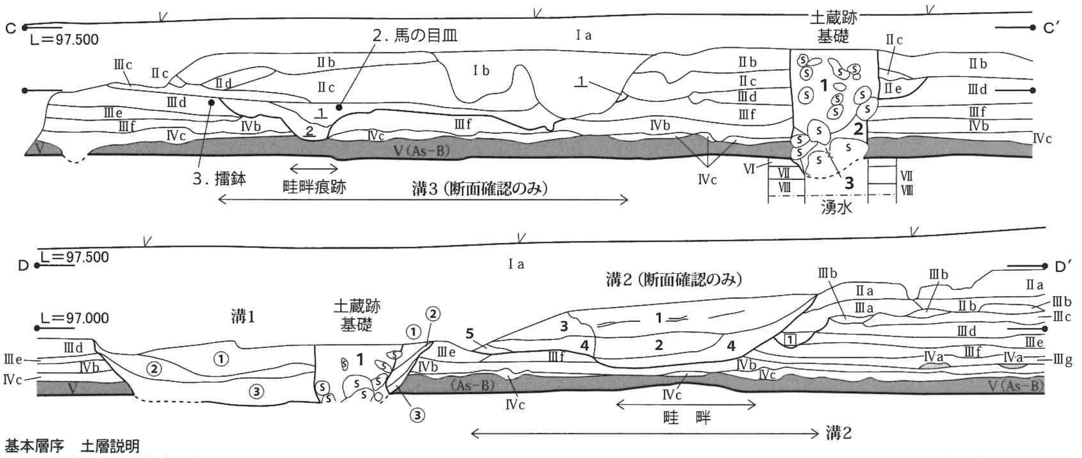
土蔵跡の杭基礎ならびに算盤・蝋燭地業基礎（古泉 2001）を確認した。Ａ区では、土蔵の杭基礎南列部分と、東・西列末端を確認した。木材廃棄土坑と溝１を破壊して構築されている。南列基礎掘り方の長さは 950cm を測る。基礎構造は、幅・深さともに 60 ～ 70cm の布掘りを行い、布基礎底面から長さ１ｍ強（抜き取った２本は 100cm と 110cm）・直径７～ 25cm の丸太杭（松ヵ）を４～６本一組で、垂直あるいはわずかに斜めに打ち込む。径の細い杭ほど樹皮を除去する傾向がある。As－Ｂ層（下面）を布基礎掘削深度の基準としており、抜き取った杭の先端には As－Ｂが付着する。杭先端は支持層に到達していないため、杭周摩擦力を利用した摩擦杭であろう。

杭頭（末端打面）は水平に揃えられ、周囲をわずかに掘り込んで、拳大～幼児頭大の円礫栗石を明褐灰色粘土とともに充填する。この粘土はⅥ層に相当し、廃棄土坑は採掘坑の可能性もある。杭

直上面には厚さ１～２cmの礎板を置く。南列杭群は10ヶ所（９間、両端芯々間900cm）で、間隔は西から85・85・100・100・160・100・100・85・85cmを測り、整然と配される。

布基礎内部には多数の円礫と粘土・As－A混入砂質土・粘質土が充填される。Ｂ区東壁では、一辺15～20cm×長さ60～90cmの直方体割り石が垂直に立ったままの状態で出土し、「蝋燭石」（古泉2001）と判断する。上から見ると、石材の対角線が布基礎中軸線とほぼ一致する。Ａ区表土掘削時には多量の円礫とともに、蝋燭石が10個程度出土した。Ｂ区の状況からは、小型石材の直下には径40cm程度×厚さ14cmのタイコ挽き丸太が設置され、丸太直下の粘質土は著しく硬化していた。この丸太は、いわゆる「算盤」（古泉前掲）と判断できるが、大型石材直下には認められない。

全体構造は、円礫・粘土等で根固めした布地業、軟弱地盤での不等沈下を防ぐ杭基礎、杭天端の礎板と算盤地業、建物荷重を受けて杭・算盤に伝える蝋燭石地業などを複合的に利用した基礎地業と判断できる。明治18年の迅速測図には、調査区の位置に建物が描写されている。重複する溝と廃棄土坑は幕末～近代と推測したが、時期を確定できる遺物は伴わない。調査区西端の溝４から「明治八年二銭銅貨」が出土しており、土蔵構築時期は19世紀後半～近代初頭の期間と推測する。但し、杭が輸入材（米松・ダグラスファー）であった場合は大正末期以降と考えられる。



基本層序　土層説明

Ⅰa　灰 白 色。現代砕石客土。
Ⅰb　明褐灰色。砂質土・礫・Ⅱc層細砂・レンガなどの近現代複合層。
Ⅱa　褐　　色。硬化。細砂多量、炭化物少量、軽石（Hr-FPヵ）多量。
Ⅱb　黄 褐 色。硬化。細砂多量、炭化物少量、軽石（As-Aヵ）多量。
Ⅱc　明褐灰～灰白色。軟弱。細砂主体。下部は砂質土。洪水層ヵ。
Ⅲa　黄 褐 色。しまり非常に強い。粘性なし。細砂多量、小礫（φ5mm）少量。粘質土少量、炭化物少量、As-A・黄白色粒各少量。
Ⅲb　半褐～黄灰褐色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A少量。
Ⅲc　灰 褐 色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A少量、細砂微量。
Ⅲc′ 褐 灰 色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A少量、細砂微量。
Ⅲd　暗黄褐色。しまり非常に強い。粘性あり。As-A少量、細砂微量。
Ⅲe　暗灰褐色。しまり強い。粘性なし。細砂多量、As-A少量、粘質土小量。
Ⅲf　褐　　色。しまり強い。粘性なし。細砂多量、As-A少量。
Ⅲg　灰 褐 色。しまり強い。粘性なし。細砂多量、As-A少量、粘質土小量。
Ⅳa　黄 褐 色。しまりあり。As-B類似の軽石純層。
Ⅳb　褐　　色。しまりあり～強い。As-B多量（2次堆積）。
Ⅳc　黒 褐 色。しまりあり～強い。As-B主体（2次堆積）。
Ⅴ　黄白色～暗褐色。しまりあり。As-B（1次堆積）。最下部に細粒火山灰。
Ⅵ　黒褐色～暗灰褐色。しまり強い。粘性強い。As-B直下水田跡の耕作土。
Ⅶ　明褐灰色。しまり強い。粘性強い。均質。
Ⅷ　褐～暗灰褐色。しまり強い。粘性強い。均質。
Ⅸ　褐　　色。しまり強い。粘性あり。白色軽石（As-C）少量、細砂少量。

土蔵と重複する溝1　土層説明（D-D′）

① 褐灰色。粘土主体。しまり・粘性強い。
② 黒　色。炭化物主体。木材少量。しまりあり。
③ 黒褐色。炭化物・木材多量。しまり強い。粘性あり。

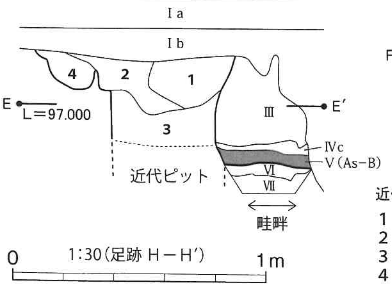
土蔵北側の溝2　土層説明（D-D′）

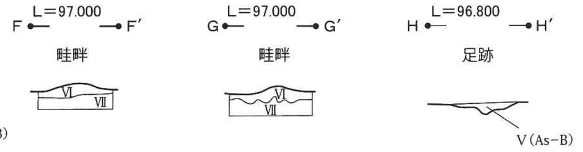
1　黄褐～黄橙色。シルト質。細砂多量、粘土少量、As-A少量。炭化物層を挟む。しまり強い。粘性あり。
2　褐灰色。粘質土主体。細砂少量。しまり強い。粘性あり。
3　明褐灰色。粘土主体。As-A少量。しまり強い。粘性強い。
4　黒褐色。木材多量、炭化物少量。しまりあり。粘性弱い。

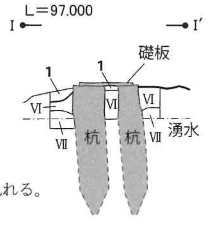
土蔵南側の溝3　土層説明（C-C′）

1　黒褐色。炭化物主体。木材少量。しまりあり。
2　暗褐色。しまり強い。粘性弱い。炭化物微量。As-A微量、細砂微量。

0　1:60　2 m







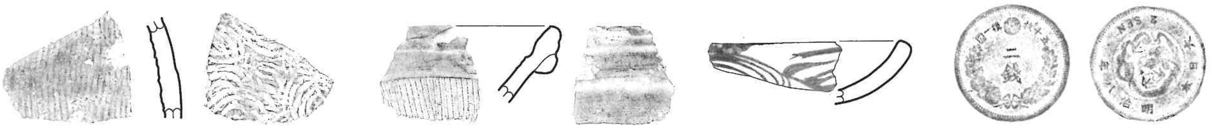
近代ピット　土層説明（E-E′）

1　褐　色。ロームブロック多量、細砂少量、炭化物多量。しまり強い。粘性弱い。乱れる。
2　褐～暗褐色。ロームブロック多量、炭化物多量。しまり強い。
3　灰褐色。As-B多量。しまり強い。粘性あり。
4　明褐色。As-B多量。炭化物多量。細砂少量。しまり強い。粘性あり。

第６図　各遺構断面図

4．遺構および遺構外出土遺物（第6図、ＰＬ．3）

表土～近世包含層中からは陶磁器・土器類・瓦・曲物片等が多数出土した。1は撹乱層出土の須恵器甕胴部片、2はⅢｄ層から出土した近世の焼締陶器擂鉢である。3は溝1から出土した瀬戸美濃・馬の目皿で、19世紀初頭～中葉の所産であろう。4は溝4出土の明治八年二銭銅貨である。

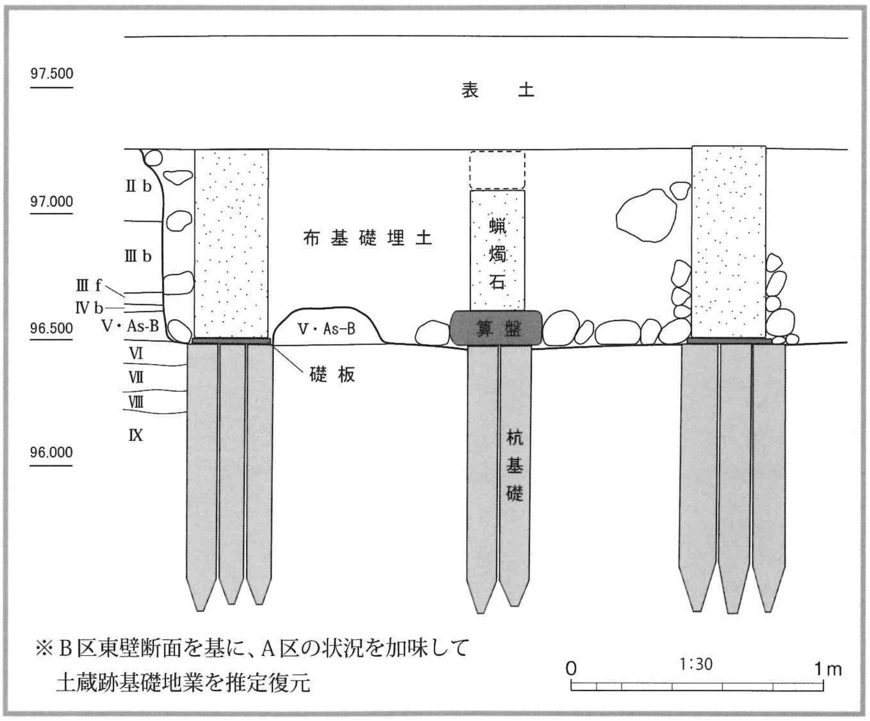


1（1/4）　2（1/4）　3（1/4）　4（1/2）

第7図　出土遺物実測図

5．小　結

As－B層下水田では、畦畔は明瞭ながらも高さがなく、田面に凹凸や小穴が非常に少ないため、坂口 一（2011b）や有山径世（2010）が想定した「休耕田」の可能性が高い。1・2次調査区内は小畦畔のみで、条里坪境は確認できなかった。土蔵基礎は軟弱地盤における重量建造物の典型的基礎地業で、東京都（江戸遺跡）での調査事例が多い。類例として、前橋城三ノ丸遺跡の1・2号建物跡（18世紀後半～19世紀前半、荒井1996）の杭基礎や、東京都江戸川区昇覚寺の鐘楼基壇地下遺構（1781～1789年建立、武藤2001・古泉前掲）の蝋燭地業・算盤地業が挙げられる。



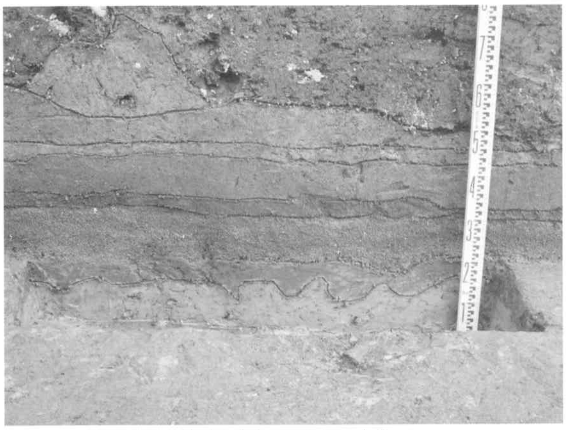
※Ｂ区東壁断面を基に、Ａ区の状況を加味して
土蔵跡基礎地業を推定復元

引用・参考文献

高崎市　2001『新編　高崎市史』通史編1　原始古代　／　1999『新編　高崎市史』資料編1　原始古代Ⅰ　／　2000『新編　高崎市史』資料編2　原始古代Ⅱ
田島桂男・上原啓己・飯塚恵子・久保泰博・田口一郎　1979『大八木水田遺跡』高崎市文化財調査報告書第12集　高崎市教育委員会
久保泰博・田村　孝・高橋　淳・山田史仁　1990『高崎城遺跡　Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ』高崎市文化財調査報告第107集　高崎市教育員会
長井正欣・志田　登・大越直樹　1994『飯塚西金井遺跡』高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会
荒井英樹　1996『前橋城三ノ丸遺跡』山武考古学研究所
折原洋一　1997『高崎城XIV遺跡』高崎市文化財調査報告第57集　山武考古学研究所
神戸聖語・神津芳夫・金子正人　1997『飯塚新田西Ⅱ遺跡』高崎市文化財調査報告第69集　高崎市遺跡調査会
吉田昌利　1997『上並榎御領所Ⅱ遺跡』高崎市文化財調査報告第65集　高崎市遺跡調査会
曽江哲也・澤田福宏・高階敏昭　1997『上中居西屋敷Ⅲ遺跡』高崎市文化財調査報告第70集　高崎市遺跡調査会
山崎　悟・日沖剛史　1997『栄町Ⅱ遺跡』高崎駅東口線栄町遺跡調査会
坂口　一　2010『中居町一丁目遺跡3』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第509集　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
坂口　一　2011a『羅漢町遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第512集　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
坂口　一　2011b『岩押Ⅲ遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第520集　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
有山径世　2010『南部拠点地区遺跡群No. 5』前橋市教育委員会　／　荒井英樹　1996『前橋城三ノ丸遺跡』山武考古学研究所
武藤康弘　2001「江戸大名屋敷の建物跡」『埋もれた中近世の住まい』奈良国立文化財研究所シンポジウム　同成社
古泉　弘　2001「3建築－軟弱地盤の基礎工法」『図説　江戸考古学事典』江戸遺跡研究会編　柏書房
（財）千葉県環境財団　2010『防災誌　風水害との闘い』千葉県総務部消防地震防災課

A区 全景（東から）

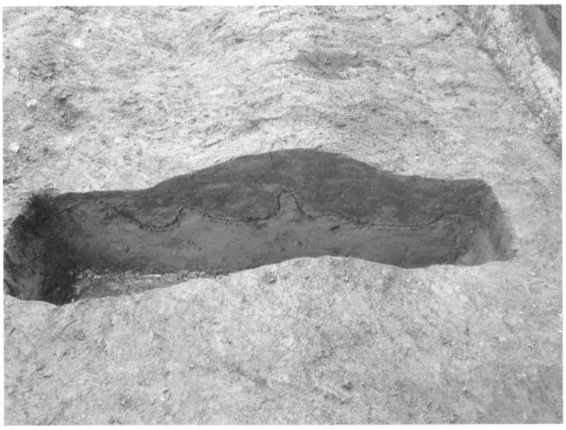
A区 全景（西から）


基本層序Ａ（東から）

土層堆積状況（Ｄ－Ｄ′東側・南から）

畦畔痕跡　検出状況（北西から）

足跡列　検出状況（南西から）


畦畔截割状況（Ｇ－Ｇ′・南東から）

足跡土層断面（Ｈ－Ｈ′・北西から）

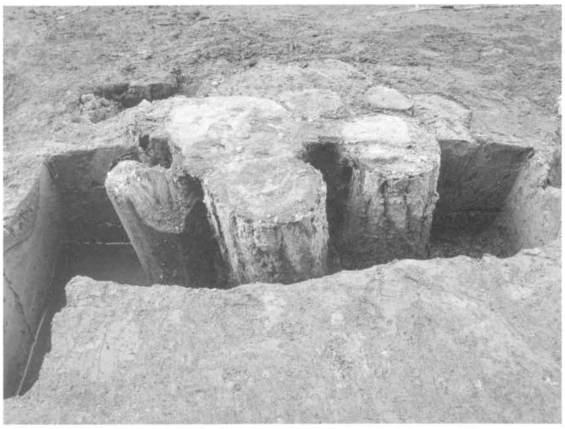
土蔵跡杭基礎　検出状況（西から）

土蔵跡杭基礎　検出状況（西から）

杭基礎上部　礎板検出状況（西から）

杭基礎　露出状況（南から）

杭基礎上部土層断面（C－C′・南から）


杭基礎截割状況（Ｉ－Ｉ′・南から）

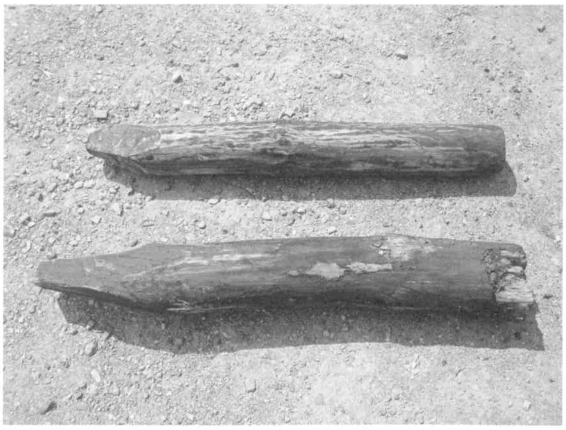
B区 全景（西から）

土蔵跡蝋燭・算盤地業基礎　土層断面（西から）

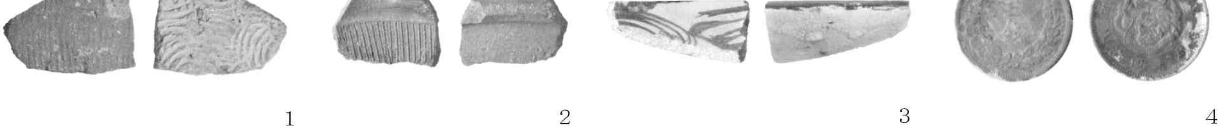
算盤基礎検出状況（西から）

畦畔痕跡・足跡・掘削痕 検出状況（南西から）

土蔵跡基礎の石材



基礎杭　出土直後の状態



1　2　3　4

出土遺物

抄　録

フリガナ	スミヨシチョウイセキ２
書名	住吉町遺跡２
副書名	－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 299 集
編著者名	南田法正
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379 － 2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地１　TEL. 027 － 265 － 1804
発行機関	有限会社毛野考古学研究所
発行年月日	西暦 2012（平成 24）年８月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号	（世界測地系）				
すみよしちょういせき 住吉町遺跡	ぐんまけんたかさきしすみよしちょう 群馬県高崎市住吉町 21 －３、－６、－９、－ 10	10202	531	36° 20′ 00″	139° 00′ 02″	20120326 ～ 20120331 ／ 20120621	119.9	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
住吉町遺跡	水田跡 その他	平安 中世 近世 近代	As － B 層下水田跡 ピット　４基 杭　痕　２基 土蔵跡（基礎）　１棟	須恵器 陶器 磁器 土器類 瓦 石製品 （蔵跡石材） 植物遺存体 （杭・礎板・桶）	平安時代後期・As － B 層直下の水田跡検出。 土蔵跡布掘り杭基礎および蝋燭・算盤基礎地業を確認。近世末期～近代頃と推測。

高崎市文化財調査報告書第 299 集

住吉町遺跡２
－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

平成 24 年８月 18 日印刷
平成 24 年８月 31 日発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
発　行／有限会社毛野考古学研究所
前橋市公田町 1002 番地１
TEL　027 － 265 － 1804
印　刷／朝日印刷工業株式会社